

平成28年度 一般選抜中期日程/国際商学科 外国語
出題の意図と解答の傾向

I (140点)

問1

【出題の意図】

いわゆる英文和訳ではなく、文脈を読み取る能力をみるもの。

【解答の傾向】

前後の文脈から正確な判断をして適切な選択ができたものが多かった。

問2

【出題の意図】

代名詞 they が指すものを把握できているかどうかを確認するもの。

【解答の傾向】

違う個所を指摘した解答は少なかったが、意図した個所が全て指摘できたものは少なかった。前半部分が抜けているものや、Nearly が抜けているもの、philosophy and religion のみという解答が多く見られた。

問3

【出題の意図】

同格の接続詞 that の用法を理解した上で、nobody is above the law またはそれと同意の everybody should be treated equally under the law をしっかり把握できるか否かを問うもの。

【解答の傾向】

大部分の人が「法は全ての人に適応され、平等に扱われるべきである。」という内容を指摘できた。「地位や権力に関係なく、全ての人々が平等である」という解答も多くみられたが、問題が意図した内容と解答とのズレの程度により減点した。

問4

【出題の意図】

純粋な英語の問題ではなく、常識を問うたもの。

【解答の傾向】

「南北戦争」までたどり着いた受験者は予想以上に多かった。しかしながら、「黒人と白人の戦争」、「奴隷自らが解放されるために起こした戦争」、「1876年に南北戦争が開戦した」などの誤答が非常に多かった。アメリカ史における常識を知っていれば簡単に想像できたはずの答えである。しかしながら全体的に見て割ととよくできていたと言える。

問5

【出題の意図】

本文の2行前にある **white men had the right to own black people** を受けている指示語 **this** が含まれている **this right** の理解度を試すもの。

【解答の傾向】

多くの受験生は下線部が指すものが何であるか気づいたようであったが、「白人が黒人の権利を所有する」と解した誤答が非常に多かった。また、「白人が黒人と同等の権利を所有する」、「黒人が自由になる権利」という誤答も目立った。全体的に見てあまりできていなかったようである。

問6

【出題の意図】

代名詞 **It** の内容を問う問題。

【解答の傾向】

前段落にある **Human rights reflect the society that creates them.** を受けるものであるが、目立つ誤答として、

- (1) 形式主語 **it --- that ~~~** と勘違いしたもの、つまり **It is clear that ~~~** と同じ構文だと考え、接続詞 **that** 以下を訳出したものが目立った。別の言い方をすれば **that** 節以下は他動詞 **means** の目的語になる、という理解ができていなかった。
- (2) **It** が指す内容が理解できていても、「人権はその人権を生み出す社会を反映している」とすべきところを、「社会に反映されている」というように、因果関係が逆転している解答も多く見られた。

問7

【出題の意図】

下線部訳。形式主語 **It** の用法と、前置詞句 **because of**、更に助動詞 **would** の用法と基本的な単語 (**duty / oppose / remove / faith**) が身につけているかどうかを問う問題。

【解答の傾向】

構文は形式主語 It が不定詞 to oppose 以下を受ける比較的簡単なものであったが、以下の例にあるように、基本的な単語が身につけていないことがわかった。

- (1) color を単に「色」としたものの。
- (2) これは非常に驚かされたが、faith を face 「顔」とした解答が非常に多かった。
- (3) duty を dirty ととらえ、「汚れ」「汚点」「恥」としたものの。
- (4) 助詞の使い方により、主客が逆転することがありえるが、to oppose those people を「人々を反対する」とした解答がきわめて多かった。
- (5) 単語帳で覚えたものであろうが、文脈などお構いなしに remove the human rights を「人権を取り除く」と訳出した解答が目についた。

全体的に見て、まずまずか、あまりできていないかというところであろう。

II

問1 (各15点)

【出題の意図】

基本的な英文作成能力を問う問題である。問題は2つ。

問題1

【解答の傾向】

以下のようなエラーが目立つものの、わりとできていたようである。

- ・ remember that how のように how と that が共起する形で出て来るもの。
- ・ how to (you) through it のように前置詞 through を動詞として用いているもの。
- ・ how did you pass it というように、間接疑問文の文型が単純な疑問文の形になっているもの。
- ・ survive のスペリングエラーが目立つ。

問題2

【解答の傾向】

以下のようなエラーが多くみられたものの、まずまずのできであったといえる。

- ・「あなたが～から出てきた時」は when you come out of のように現在形になり、前置詞は out of であるはずであるが、come back from、leave (left) from、come out from などのエラーが見られた。
- ・「～ではないだろう」は推量の意味があるから、won't be や may not be などが適切であるが、are not という断定の形になっているものが非常に多かった。
- ・「同じ」という場合は、常に the same。定冠詞の the が欠落しているものが多かった。

問2 (30点)

【出題の意図】

この問題を通じて受験生は意見や理由を明確に述べられるかどうか、限られた時間内にアイデアを十分に展開させられるかどうか、段落を論理的に構成できるかどうか、また受験生の英語が十分に通じるかどうかを見たいと考えた。「内容」、「構成」、「言語力」を中心に、30点満点で解答を総合的に採点した。

「内容」については、意見や理由、詳細を十分に説明し、論理的に展開させているかを中心に評価した。「構成」については、解答は導入文・本文・結論で構成されているかどうか、“discourse markers” (first, second, one reason is, in conclusion など)や接続詞が正確に尚且つ効果的に使われているかどうかを中心に評価した。「言語力」については、解答を読んで意味が理解できるかどうか、文法・語彙・綴り・句読点が正確に適切に使われているかどうか、受験生は難しい言い回しや語彙を使おうとしているかどうか、使った場合はどのくらい正確に使えたかなどを中心に評価を行った。

【解答の傾向】

以下のようないくつかの問題点が見られるものの、全体的にはわりとよくできていた。

文法編

①命令形を使うべきなのに、使えていない。You should / you need to / you have to の使用はだいたい問題ではなかったが、命令形を使えていない解答が大変目立った。

例：Next, you make him go to a cram school. ⇒ Next, make him go to a cram school.

②Let / make / have X do ~ の適切な使い分け、正しい使用

(特に make が最も妥当なのに let を間違えて使った解答 (I have some ways to let him study)、それとも make も let も使わないで (I have some ways to study him) のような文章も多いように見えた)。いくつかの解答に cause が使われた ⇒ You must not cause your son to study. また allow が不適切に使われた解答もあった。

③冠詞の間違った使用

a my friend's sister / the your son's games ⇒ my / your だけで良いのに冠詞を付けている
an important / a smart ⇒ 形容詞の後に名詞がないのに冠詞を付けている

④by -ing が使えていない。by -ing を使うべきなのに不定詞を使っている例が多かった。また、by が抜けているケースが多かった。

例：To remove the all games your son may not play games for a long time.

(正しい：By removing all of the games your son may not play games (may stop playing games.)

例 : He can learn something playing those games.

(正しい : He can learn something by playing those games.)

⑤接続詞の問題～不適切な接続詞の使用、接続詞が必要なのに抜けている例

例 : but を使わないといけないのに and を使っている

例 : and が必要なのに完全に抜けている ; コンマだけでつなげようとしている

例 : if clause を使わなければならないのに A, and B を使っている、、 if が必要なのに if が抜けている文章がやや多かった。

⑥形容詞+名詞を使うべきなのに、副詞+名詞を使った例が多かった

例 : clearly goal

⑦未来形を使わないといけないのに will が抜けている、受け身形を使わないといけないのに使っていない (要するに、どの場合でも現在形を使って対応しようとした解答が多かった)

⑧too much が使えていない

例 : He is too playing video games

(正しい He is playing video games too much)

単語編

①You should a) throw away (捨てる) / b) take away (奪う) his video games を書こうとしていたが、不適切な動詞を使っている解答が目立った。例えば : deprive, remove, rob, replace, dump, abandon, pick up, など。Through out のようなスペルミスも多かった。

②文法編の②と関連するが、学生の大好きな”dreams come true”に関する書違いがやや多かった。

例 : Give him advice for him to come true his dream.

(正しい : Give him advice for him (to help him) make his dream come true.)